

棚田保全をツーリズムに

いの町グリーンツーリズム研究会では、身の丈に合わせた、いの町らしいグリーンツーリズムの展開を目指して、これまで農村民泊の開業や本川での焼畑復活の試みなどに取り組んできました。

そして、こうした動きをより町内に広めていくためには、地域で先行して行われている各種取り組みとのネットワーキ化や相互連携、さらにはサポートといったことも欠かせないのではないかと考えています。

そこで、まずは地域での動きをもっと知り、同時に皆さんにもお伝えもし、研究会としての関わり方などを考えていこうとメンバーが取材を行いました。今回は、その中から、町内外との交流につながりつつある、いの町成山での棚田保全活動を紹介します。

棚田保全におもろ

いの町成山は、土佐和紙「七色紙」の発祥地として知られ、美しい棚田に囲まれた里山である。しかし、この棚田にも休耕田が目立つようになってきた。

2000年、農業経験のない「ずぶの素人」が、ただ成山の景観に魅せられて、米を作ってみようという思いから、5畝の休耕田を借り挑戦した。6月に田植えをし、10月に刈り取りし稲木に干した。夕日に輝く稲とアカトンボの飛び交う様に感動した。

米作りに味をしめた仲間、翌年、意気揚々と小麦作りに挑戦し、うどんを打って、地元の人々と楽しい交流会を



棚田耕作のまよう

わしの里元気村

もった。しかし、こんな農作業も4年目に入ると、健康の理由から中高年の仲間は、一人二人と抜けていった。8人で一人前だと自覚していた仲間にとっては致命的であった。そして翌2004年、田を地主の方に戻し農作業を止めた。戻した田は、すぐに草ぼうぼうとなり休耕田となった。

そんな時、グリーンツーリズムの一環として棚田を保全しようとするチームが生まれた。また、七色紙にまつわる「歴史文化をさぐる七色の里を考える会」や「土佐地域文化研究会」等が、それぞれの分野から成山と関わりを持ちたいと集まった。こうして、2005年「わしの里元気村」が組織された。

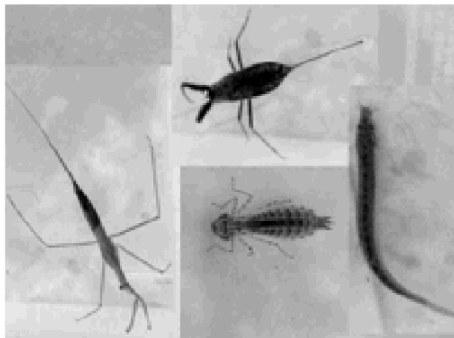
七色の里を拠点に、町内外からグリーンツーリズムに興味のある仲間がたくさん集まってきた。今や米作りだけでなく、成山の自然・歴史・文化にまで取り組みは広がった。棚田保全チームは、無農薬による米作り、ビオトープ作りを取り組み、シオカラトンボ、ホタル、ドジョウ、タイコウ

チ等に目を輝かせた。七色の里を考える会は、発掘調査の結果をふまえ、養甫尼の碑の建立に取り組んでいる。また、10年20年先を見こし「成山遺産」と称して、写真による記録に残しに地元と共に取り組んでいる。

棚田は、耕作地を得るために先人が石を積み苦勞して造りあげた。すべての田に稲を作ることには難しい。田の活用は稲を作ること、それだけではないはず。保全管理された田は、貯水池の役目を果たし、災害防止につながる。水をはった田に映る月の風情はすばらしいも

問い合わせ・連絡先
いの町グリーンツーリズム研究会
事務局 いの町吾北総合支所地域振興課
所在地 いの町上八川甲1934
☎867-2314 ☎867-2337
※いの町グリーンツーリズム研究会では、新しい会員の参加を募っています。やってみたい方、もっと研究会のことを知りたい方など、お気軽に事務局まで、お問い合わせください。

お知らせ
わしの里元気村では、地域にあるもの(個性や魅力)を再発見するため、11月19日〜20日に地元学現地散策を行います。コーディネートに里地ネットワークの竹田純一氏を迎えます。興味をお持ちの方、参加してみませんか。また、棚田作りメンバーも募集しています。(参加希望また問い合わせは、わしの里元気村・中嶋携帯090-1897315752までご連絡願います。)



水生生物